

## 平成 27 年度事業報告

### 1. 概 要

今般の経済情勢は、緩やかな回復基調が続いているものの、国・地方を通じた厳しい財政状況もあり、シルバー人材センターを取り巻く環境は、依然として厳しい状況にあります。

このような中で本センターは、市当局をはじめ関係団体、会員の皆様のご理解ご支援をいただきながら、平成 27 年度の事業運営に取り組んでまいりました。

平成 27 年度は、国の補助事業である高齢者活用・現役世代雇用サポート事業等を活用する中、「会員の拡大」、「就業機会の拡大」を重要課題として位置付け、各種事業に積極的に取り組みました。

平成 27 年度の実績は、年度末の会員数については、積極的な広報活動など様々な取組みにより平成 27 年度の事業計画目標であった 2,600 人を超える、過去最高の 2,601 人、前年度比較 221 人増となり、この内、女性会員数の増が 126 人となりました。

契約金額については、受託業務が、契約金額 835,732,341 円 前年度比較 27,251,823 円減 3.2%減となりましたが、派遣業務が契約金額ベースで 107,281,072 円 前年度比較 68,195,738 円増 274.5%増となり、合計で 943,013,413 円 前年度比較 40,943,915 円増 4.5%増となりました。

契約件数では、受託業務と派遣業務合計で、22,386 件 前年度比較 1,038 件増となり、受託業務の配分金と派遣業務の賃金の合計で 785,824,195 円 前年度比較 26,008,554 円の増 3.3%増となっております。

派遣業務の就業実人員を加えた就業率については、86.7%となりました。

主な実施事業は次のとおりです。

#### (1) 就業開拓及び就業率の向上

① 就業開拓スタッフを 8 名に増員、拡充するとともに事業所や一般家庭への就業開拓を積極的に行いました。なお、就業開拓にあたっては、就業日数や契約件数などの目標を定め、派遣事業を中心に受託業務の開拓も行いました。

② 実績 ・派遣就業延人員 24,972 人 ・派遣契約件数 1,044 件

② 就業開拓にあたっては、既発注者への掘り起こしや会員の希望の多い職種等の就業開拓を強化するとともに、各地域で開催されたイベントや天文館、中央駅等でのチラシ配布を行うなど、センター事業の PR に努めました。

③ 国の補助事業を活用し、親と離れて暮らす子供に代わって日常生活支援や情報伝達などを行う「親孝行代行サービス」を 10 月 1 日から開始いたしました。

- ④ 平成27年度末で指定管理期間が終了する「さくらじま白浜温泉センター」については、平成28年度から32年度までの指定管理者の市募集に応募し、次期指定管理者として指定を受けました。
- ⑤ 派遣業務において、リスク発生等の懸念から従来、受注していなかった運転業務や介護業務について、8月19日から一部条件を付して受注できるよう業務範囲を拡大いたしました。
- ⑥ 会員による新規の就業開拓強化を図るため、就業開拓報奨金を8月19日から1件当たり200円から500円に引き上げました。

交付実績 ②⑥ 18件 ②⑦ 28件

- ⑦ 未就業会員への就業案内を積極的に行うとともに、文書、電話により就業希望の確認を行ったほか未就業者を対象に就業説明会を開催いたしました。

説明会開催日 11月27日、2月26日、3月23日

- ⑧ 毎月、第2木曜日を会員のための就業相談日として、事業委員会の委員及び職員が相談を受け、就業機会の提供に努めました。
- ⑨ 入会説明会終了時、入会手続きをされた方に就業案内を行うなど就業率の向上に努めました。
- ⑩ 国等の補助事業である企画提案方式事業を活用し、「ワンコインまごころサービス事業」、「シルバー学舎事業」等を引き続き実施いたしました。

## (2) 会員の拡大及び資質の向上

- ① 就業開拓スタッフが「ハローワークかごしま」へ毎週水曜日に訪問し、来訪者への会員勧誘を行うなど積極的に会員拡大を図ったほか、会員獲得に目標人数を設定し、一般家庭への訪問や市中心部の施設や街頭等でのチラシ配布を行うなど新たな会員獲得に努めました。
- ② シルバー広報用チラシを、より分かりやすく、よりアピールできる内容となるよう見直しを行うとともに、会員拡大、就業拡大を図るため8月、11月、3月に新聞の折り込みチラシとして市内全域に配布いたしました。
- ③ 事業案内や会員募集のため、情報誌「リビング新聞」や「フェリア」への広告掲載等を5月から10月まで7回行ったほか、市電窓吊り広告を2月、3月に行うなど積極的な広報宣伝を行いました。
- ④ 会員による入会促進を図るため、会員が新たに正会員を入会させた場合、1人につき1,000円の報奨金を支給する正会員入会報奨金制度を創設し、8月19日から施行いたしました。

交付実績 ②⑦ 15件

- ⑤ 主に団塊世代の方々を対象に就業支援セミナーを4回開催し、セミナー終了後、入会手続きや就労相談等を行うなど入会促進を図りました。
- ⑥ 女性会員の拡大を目的として平成26年度に設立した「ひまわりの会」については、世話人会を開催するとともに、さらなる会員相互の親睦を深めるため全体交流会を10月27日に開催するとともに、各地域のイベント等でのチラシ配布や手作り品等の販売を行うなど女性会員の拡大に努めました。
- ⑦ 県シ連主催等のセミナー、講習会等で、受講者等に本市会員として入会していただくためセンターの事業案内や入会のための説明などを行いました。
- ⑧ 会員の技能向上、待遇向上を図るため各種研修会を実施するとともに、シルバー事業への理解を深めていただくため市民を対象とした講習会を実施しました。

### (3) 適正就業の推進

- ① 平成27年度も引き続き「ゆずりあう 心・笑顔の適正就業」をスローガンに「適正就業に関する基準運用方針」に基づき適正就業の推進に努めました。
- ② 職群班である駐輪・駐車班、公園清掃班、墓地清掃班、運搬班等を通じ適正就業の意識が会員へ広く浸透するよう周知を行うとともに、就業会員の募集にあたっては、天保山通信やホームページ、庁舎内の掲示板等を活用し多くの会員への周知を図りました。
- ③ 就業適正部会・委員会を開催し、職群班それぞれの就業状況、実態等の報告を行う中、後継者不足が発生していることや早朝、深夜帯の時間給のあり方といった課題等の解決に向けた協議を行いました。

### (4) 事業推進体制の強化

- ① 就業開拓課を企画事業推進課へ改編し、同課内に就業開拓スタッフなど11名を派遣就業推進班として配置いたしました。
- ② 地域班をネットワークにセンターの事業運営の概況・就業状況などの情報を会員へ提供するとともに、地域班会やブロック内の合同班会やレクリエーション等を通じて会員の親睦交流を促進し、連帯感の高揚に努めました。
- ③ ホームページについて、新たに会員の声や同好会活動の状況を掲載するとともに、ネットにより入会説明会の予約や入会申込書等をダウンロードできるように全面リニューアルしたほか、就業案内などタイムリーな情報発信を行いました。

- ④ 「会員・就業機会の拡大」方策を協議、検討するため会員、職員で構成するワーキンググループを設置し、会員の退会防止策等の提案を行いました。
- ⑤ 効率的な事務執行、経費節減等を図るため事務局内職員によるワーキンググループを設置し、事務改善に向けた検討を行いました。
- ⑥ 全シ事業協会、九シ連絡協議会、県シ連合会等の総会、研修会等に役員、職員が参加するとともに、広島市、八代市などシルバー事業の先進地調査を行いました。

## (5) 安全就業の推進

- ① 会員の事故防止策として、職群班及び各支部、合同班会等において、事故の発生状況等を報告するとともに、安全就業についての講習や研修会を行うなど安全就業等への周知、徹底を図りました。
- ② 安全対策部会・同委員会を開催し、発生事故の原因解明や再発防止策の検討を行ったほか、「会員の事故防止に資するための措置要領」の7月1日施行に伴い賠償事故については、注意等の処置を決定いたしました。  
 なお、同委員会委員が会議終了後、安全就業現場パトロールを5回実施し機械、器具等の使用上の注意や現場での留意事項等の指導を行うなど事故防止への意識の啓発に努めました。
- ③ 安全意識の高揚につなげるため、引き続き安全就業に関する標語を募集し84点の応募があり、最優秀賞等の作品を選定いたしました。なお、標語については、事務所内に掲げるなど会員、職員の安全就業に対する意識啓発に活用いたしました。
- ④ 平成27年度の発生事故は、傷害、賠償事故合わせて87件となり、前年度に比べ13件減少いたしました。

### ・事故の発生状況(年度別推移)

区 分	24年度	25年度	26年度	27年度
傷害事故	17件	18件	16件	<b>16件</b>
賠償事故	12件	14件	25件	<b>12件</b>
合 計	29件	32件	41件	<b>28件</b>

・平成27年7月1日「措置要領」施行以降の賠償事故に対する措置  
 賠償事故発生件数8件 内6件 文書注意処分

## (6) 独自事業の推進

- ① アンテナショップ「おじゃたもんせ」で、会員手作りの野菜や手芸品、腐葉土、ば〜ば石鹼などの販売を引き続き行いました。また、年末に会員手づくりの桜島小みかんや乾燥しいたけ、米等の販売を行いました。

- ② 腐葉土センターについては、剪定枝葉の有効活用を図るため市内3地域で実施しておりましたが、ヤンバルトサカヤスデ（不快害虫）の異常発生により、吉田地域と松元地域での事業の継続が困難となったことから、同地域での腐葉土センターは廃止いたしました。

#### （7）普及啓発活動の推進

- ① センターのリーフレットを市役所各支所、校区公民館、高齢者福祉センター、公民館等に備え付けたほか、市広報誌「市民のひろば」や新聞、民間情報誌などを活用し、積極的な広報に努めました。
- ② センター活動の宣伝、啓発等を図るため「おはら祭り」に踊り連として参加したほか10月の普及啓発促進月間に、山形屋3階のブリッジギャラリーで、会員51人の140点の作品、センター事業の概要等を展示、紹介いたしました。
- ③ センターの会報「かごしまシルバーだより」第65号（4月）、第66号（10月）を発行し、全会員へ情報発信するとともに、毎月「天保山通信」を発行し、役員、地域班長、職群班長へシルバー事業の情報を発信しました。
- ④ 各地域班、職群班において、地域でのぼり旗を掲揚し清掃活動等のボランティア活動を行ったほか、グループ就業時等においてのぼり旗を掲揚するなど市民への啓発に努めました。